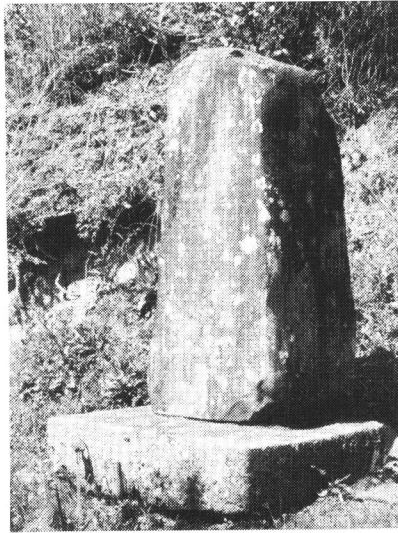


俳人竹路の墓碑



俳人竹峯路山の墓碑

月館、町畑の墓地内に「竹峯路山清信士墓碑」があり、中に辞世の句が記されており（・印）珍しいものです。碑文は、

竹峯路山清信士姓遠藤氏俗名藤七陸奥伊達郡糠田
邑月館人家世以農桑為業胸襟寛和未嘗與人忤又不汲

々於世利其為人可知也頗有雅致慕蕉翁之風而号竹路
以寛延二年巳己十月三日生以寛政十一年巳未正月二
十一日卒垂終口占曰鶯・波・出・與・余・波・歸・也・今・朝・農・夢・令・傍
人書奄然而逝矣時年五十一葬月館南一里許於先塋之
傍嗣子小左衛門孝親請予記年月書以月書應需尔

文化二乙丑年夏四月

東奥相馬高平山老隠

地生雨潤識

竹路は、月館字町の遠藤氏の先祖に当たります。
地生雨潤は相馬の人ですから、交通不便の時代とは
いえ、俳人たちはかなり自由な往来をしていたこと
がうかがえます。

辞世の句は「鶯は出でよ、弱きや今朝の夢」蕉風
を慕うとありますが、その俳友、師弟関係について
は明らかではありません。

昭和三十年刊の「福島県俳人事典」には、竹路
月館「夕影に呼鳥は何しのぶ石」と出ています。